

## 平成27年度 新潟市外国語活動部 活動報告

部長 石附 直己 (新潟市立竹尾小学校)

### 1 研究主題

進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成  
ーよりよいコミュニケーション活動の在り方ー



### 2 研究の概要

研究主題を具現するために、以下の二点について授業  
研究を通して研修を進めた。

- ・「思いを伝える」「思いを受け取る」といったコミュニケーションの本質に迫る効果的な学習活動・指導方法を検証する
- ・「積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿」につながる評価の在り方

### 3 研究の実際

市内小学校部員127名を地域別に2ブロックに分け、各ブロック1回ずつ、研究授業及び授業協議会を実施した。

#### ○ Aブロック 5年「マラウイの友達に送る紹介DVDを作ろう！」

授業者：江南小学校 教諭 井口 昭夫

授業のねらいは、「交流しているマラウイの友だちがもらってうれしいと思うメッセージのポイントに気付き、工夫して表現しようとする」ことであった。ALTの模範ビデオメッセージを見せた後、担任による問題点を含んだモデルのビデオも見せて比較させたことで、児童は表現を工夫する観点に気付くことができた。また、観点を板書して共有化したことで、それを意識して発話している児童が多く見られた。アドバイスカードにも観点を書く欄があり、お互いのいいところを褒め合う姿が見られた。

単元を通して、マラウイの友だちを対象としたことで、英語を使う必然性や継続した交流を行う喜びを感じることができた。また、総合的な学習の時間との関連を図り、異文化理解を促すことができた。

#### ○ Bブロック 6年「おすすめの国を紹介しよう Let's go to Italy.」

授業者：巻北小学校 教諭 堀切 七恵

授業のねらいは、「おすすめの国紹介を行い、自分の思いがはっきり伝わるように話したり聞いたりしようとする」ことであった。おすすめの国紹介では、すすめる理由を「食べ物、見ることができるもの、遊べること」から選び、発表につなげた。これは、すすめる相手であるALTの要望に応じたものであり、単元を通して、ALTに伝えるという相手意識をもたせることができた。また、自分のおすすめしたい国ごとにグループ編成を行い、必ず1人が1フレーズ以上話すようにした。定型表現を用いるだけでなく、伝えたいことに合わせた英語を話したり、写真やジェスチャーを用いたりするなどの工夫をして伝えていた。グループの発表が終わるごとに、お互いの採点を星プレート（星の数）で表した。

※ 新潟市では、年間9回の「市小研の日」を中心に、自主的に研究を推進している。

上で述べた事業の他、関東学院大学大学院教授の金森強様のご講演、新潟市教育委員会学校支援課の渋谷徹様による教育課程説明会、新潟市立山田小学校校長の岩田すみ江様のご講演、新潟市小学校教育研究協議会研究発表会での発表、研究授業に関する情報交換、会員による実践発表、伝達講習会等の研修を実施した。

### 4 成果と課題

「思い」を育む授業づくりのポイントは、①魅力的な話題、②コミュニケーションの必要感、③多様な伝え方の工夫である。二つの研究授業における魅力的な話題は、単元を通じた目的意識と相手意識をもたせるために有効であり、コミュニケーションの必要感にもつながった。また、既習事項やモデルのビデオから児童が多様な伝え方の工夫に気付くことができた。アドバイスカードや星プレートを活用し、お互いを認め、よりよくしようとする姿を見出すことができた。

今後の課題として、「相手への思い」「内容への思い」をもたせるための授業づくりのポイントを土台にしながら、教科化される小学校英語で求められる「聞く」「話す」技能の定着を視野に入れ、「読む」「書く」に慣れ親しませるための指導の工夫にも触れたい。中学校へのスムーズな接続ができるように、小中連携を推し進めていきたい。